

小学校

教科【国語】

単元【言葉の特徴や使い方：漢字の広場③】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

クラウドによるデータの共有を活用し、他者の工夫や考えのよさに触れることにより、既習漢字を積極的に活用しようとする態度を養うことができ、学びが深まる。

ICT活用のポイント

Google フォーム及びスプレッドシートを活用することにより、短時間で多様な考えに触れることができ、漢字についての深い理解につながる。

使用する
ICT機器

大型提示装置、タブレット等

使用するアプリ・
クラウドサービス等Chrome描画キャンバス、Google Classroom、
Google フォーム、Google スプレッドシートクラウド
の活用
教材の配布・回収等
生徒の学習状況の把握
資料等の共有
その他（ ）
本時の
ねらい

前学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。

主な学習活動
(学習場面)

ICTの活用・留意点等

評価

導入

○教科書を用い既習の漢字の読み方を確認する

一斉



大型提示装置を使って前学年までに学習した漢字を拡大して表示する。

ICT機器



○本時の課題を確認する

一斉



前学年までに配当されている漢字で構成された熟語を使った文を作る学習について、見通しをもつ。

展開

○確認した既習の漢字を用いて文を作る

個別



ノートに、前学年までに配当されている漢字で構成された熟語を使った文を書く。

○Google フォームに入力する

個別



Google Classroomにアクセスし、Google フォームに考えた文及び使った熟語の数を入力する。

指針2

ICT機器



ここで評価

クラウド

○スプレッドシートを共有し、交流する

協働



Google フォームに入力されたものを出力したスプレッドシートをClassroomを通じてクラス全体で共有する。

指針2

指針3

クラウド



友だちの文を読み、分からない熟語を確認したり、考えのよかったところを交流したりする。

【知】

当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っていると同時に、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。

終末

○本時の振り返り

個別



振り返りアンケートをGoogle フォームで回答する。

クラウド

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。
 ※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。
 ※ 評価の観点 【知】=知識・技能 【思】=思考・判断・表現 【態】=主体的に学習に取り組む態度